

# おやつのかん3 -ちょっとひとやすみ-

—なかま集め—

NO. 104



年末、大掃除をされたお家も多かったのではないのでしょうか。「なぜこの寒い時期に…」と思いつつ、一年のほこりを落とす意味も込めてでしょうか、整理整頓してキレイになると、やっぱり気持ちいいですね。整理整頓って、同じジャンルのモノを集めたり、箱にしまったりする“なかま集め”みたいなものなので、取りかかると、ちょっと楽しくなったりしませんでしたか？でも、これを読む頃には、もうあの場所に山ができていたり、床が見えなくなっていたり、なかなか難しいです。小掃除が続かないから大掃除になるわけで、まあ、しょうがない…で、いい…ですよ…ね。

さて、自分のいい加減さは横において、子どもの話に切り替えますが、「またあれで遊んでるよ」「ずっと、あればっかり」のお正月休みだった子もいるのではないのでしょうか。お休みが続いていたので、子どもにとっては、ゆっくりと制約少なく、その遊びにいそしめたのだと思います。そんな遊びの中で、“なかま集め”が始まっていたりしませんか？ミニカーの工事車両だけ集めたり、キャラクターや動物のフィギュアを集めたり。レゴブロックの同じ形のピースを探して集めたり、まあ、自然な光景なんですけど、ここに大きな育ちの芽があるんです。

“なかま集め”のスタートは、“同じもの集め”ですね。「おんなじおんなじ」がそれだけで楽しい時があります。同じものを揃えることで、なぜか満足、落ち着きます。そんな頃、日常生活の中では、“セット”になるものが身近になってきます。『スプーンとフォーク』『帽子と靴』のように、お決まりの場面で使うアイテムです。そして、何やら大人にはわからない本人基準の“なかま集め”が始まります。そこから少しずつ遊び心が広がってくると、“似ているようで違うもの集め”へと変わっていきます。「動物」「食べ物」「クルマ」「電車」「恐竜」「アンパンマン」「ディズニー」といった“なかま”を意識しだします。凶鑑のようなくくりですね。

“なかま集め”が始まると、それを集める場所が必要になります。それまで外に外にばかりに目が向いていたのに、自分のまわりに囲い込みだします。そして、「これはOK、これは違う」と吟味が始まります。探し回っても、見つければ戻ってきます。“じっくり考え遊ぶ”姿になってきます。そして、何かを探すようになると、何ごともよく見るようになってきます。ちょっとした違いにも気づくようになります。それを手伝ってくれる人は“いい人”になるので、関係は深まりますね。「これはどう？」「それいいね」のやりとりが、言葉が無くてもできるようになってきます。モノの名前を覚えたり、まだ文字は読めなくても、字の並び形で、看板のように覚える子もでてきます。何よりも、遊び込めるようになると、上手に終わって切り替えられる場面が徐々に増えてきます。

もう気付いているお母さんお父さんもいると思います。それをわざわざ“こだわり”とか“固執”といった言葉でくくってしまうと、広がろうとしている子どもの真剣な目を、見逃してしまうかもしれません。そんな大げさなもんじゃありませんが、「またやってる～」と言いながら、たまには、子ども目線に降りてみてください。「なるほど、これね」に変わるかもしれません。

とはいえ、長かった冬休みは終わりました。その温めてきた芽で、遊ばせてください。一緒に座り込みたいと思います。(R7. 1) K

